

Hip Joint news

(公財) 日本股関節研究振興財団会報

URL <http://www.kokansetu.or.jp>

E-mail info@kokansetu.or.jp

第5号 平成29年 1月

発行 公益財団法人
日本股関節研究振興財団
〒154-0011

東京都世田谷区上馬 1-13-11

電話 03-3421-6552

FAX 03-3421-6716

理想的な人工股関節への挑戦

公益財団法人日本股関節研究振興財団

相談役

忽那 龍雄



伊丹康人先生（股関節研究振興財団名誉理事長）は、日本人の骨格によく適合する理想的な人工股関節への血の滲むような研究・開発を37年間にも及ぶ長い年月続けてこられました。1994年にはJOHP（日本の整形外科医が開発した人工股関節という意味）と名付けた理想的な人工関節を作り上げて、その術後成績を含めた37年間の研究成果を2008年に「理想的な人工股関節への挑戦」という一冊の本にして刊行されました（股関節研究振興財団出版）。本文のタイトルは、先生の本の名前です。

私は、先生が慈恵医科大学整形外科教授でおられた1980年に先生のもとで理想的な人工股関節の概念を学ばせて戴きました。その後、新設の佐賀医科大学において、1983年に3本スパイク付き人工股関節置換手術が行え

るようになってから2004年に定年退職までの20数年間に亘り、先生にはたびたび御来学戴き、人工股関節に対する考え方、手術手技など、股関節外科に関する多くのことを親しく御教授戴きました。

人工股関節とは、大腿骨頭の受け皿となる骨盤側の人工骨（人工臼）と大腿骨頭の代用である大腿骨側の人工骨（人工骨頭とその軸）の形態が異なった二つの人工骨（金属、プラスチック、セラミックスなどの加工品）を組み合わせたものです。

先生は、人間の骨で作った人工股関節ならいざ知らず、そうでない以上、「ヒト」の身体は体の中に入れたものをすべて異物として取り扱うことが生体の常であり、人工物を簡単には受け入れてはくれない。それを長年共存させる理想的条件とはなにかについて、

動物実験、生体力学などの基礎的研究、および術後の成績を解析されて、最も重要な条件が人工股関節の最適な設置方向であることを明らかにされました。その位置は、身体の重みが股関節から大腿骨へ伝達される通路（荷重路）に位置付けることであります。正確な手術手技によって、骨掘削を最小限にし、荷重路内に設置できれば、人工骨は生体の骨と自然に適合致します。私は先生の鋭い洞察力に感服致しました。

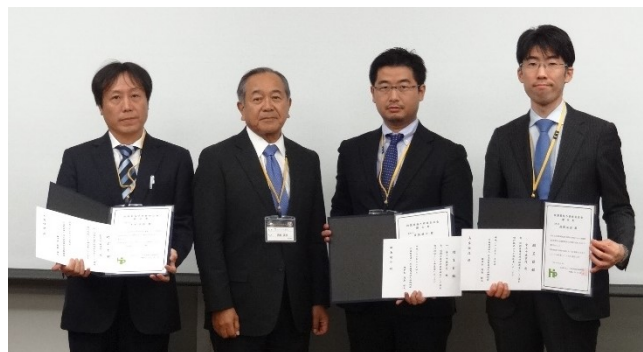
なお、股関節財団から原稿依頼を頂きました直後の昨年12月、恩師伊丹康人先生が102歳の天寿を全うされたとのお知らせを受けて驚きました。まさに「巨星落つ」です。

理想的な人工股関節の開発、正確な設置を可能にするための手術器具の開発などを行う機会を与えて戴き、温かく多くの事をお教え戴きました。心から幸せに思っております。

謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年度股関節助成金及び、海外研修助成交付者決定

企業様からのご寄附と皆様からの「股関節らくらく募金」は、
下記の助成金に使用されました。温かいご支援に、感謝いたします。



平成 28 年股関節研究助成金交付者 3 名(左)と本年度より始まった股関節海外研修助成交付者 3 名(右)

股関節研究助成研究課題と交付者名簿

「日本人ゲノム解析ツールによる股関節形成不全の疾患感受性遺伝子の探索」

東北大学 森優先生 70万円

「変形性股関節症の発生率およびその危険因子の解明:地域縦断コホート調査」

東京大学 飯高世子先生 70万円

「活動性の広がり運動機能向上を目的としたロコトレと二重課題トレーニングによる健康増進事業」

HITO 病院 岩瀬美保先生 70万円

股関節海外研修助成交付者名簿

九州大学 本村悟朗先生 35万円

北里大学 福島健介先生 35万円

山形大学 高窪祐弥先生 35万円

第27回 股関節研究セミナー 開催

第 43 回日本股関節学会学術集会にあわせて、大阪国際会議場にて開催されました。セミナーでは、平成 25 年度股関節研究助成金交付者による研究成果報告が行われました。それぞれ、股関節研究にとって大変有意義な研究で、さらなる期待が持てる内容となりました。セミナー参加者は約 40 名、熱心な質疑応答が行われました。

報告 1 「人工股関節における至適軟部組織緊張バランスを指標としたインプラント設置手技の確立」

独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 藤井政徳先生

報告 2 「自動定量システムを用いた変形性股関節症の早期診断法の確立」

東京大学 村木重之先生

報告 3 「股関節不安定性の評価法の確立に関する研究」

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター 森亮先生



藤井政憲先生



村木重之先生



森亮先生

第16回股関節市民フォーラムご報告

平成28年9月3日（土）、東京医療保健大学世田谷キャンパス校舎M103教室にて、「ロコモ予防の第一歩は、呼吸から」という年々話題になりつつある「呼吸」をテーマに第16回股関節市民フォーラムを開催いたしました。

まず、挨拶として当財団の理事長である別府諸兄先生が、「今なぜ呼吸が大切ですか？」というテーマをロコモティブシンドロームの観点からご説明いたしました。

次に、この度のフォーラムのテーマである「ロコモ予防の第一歩は、呼吸から」を、日本における「呼吸」の第一人者である東京有明医療大学副学長本間生夫先生がご講演されました。講演では、加齢により引き起こされるロコモティブシンドロームと呼吸の関係を解説し、その予防法として「呼吸ストレッチ」の有用性と実演を行い非常に好評でした。

休憩を挟み行われた実技では、当財団の体操指導者で健康運動指導士でもある太藻ゆみこ氏が、「効果的に身体を動かす呼吸の仕方」を会場の参加者の皆様と共に行い、皆さま楽しんで参加されていました。

最後に行われた「質疑応答」では、この度のテーマである「呼吸」を中心に会場の皆様と活発に意見交換がなされ、大変有意義なものとなりました。



本間生夫先生

第17回股関節市民フォーラムご報告

平成28年12月10日（土）、はまぎんホールヴィアマール（横浜市）にて第17回股関節市民フォーラムを幼年期の股関節疾患（先天性股関節脱臼※発育性股関節脱臼）～大人になってから起こりうる股関節疾患（変形性股関節症）をテーマに開催いたしました。

開演前には、4種類の健康チェック（ロコモスキャン・ロコモ度テスト・体組成計測・ボール体操体験）が行われ、参加者の皆さまは楽しみながら参加されておりました。

まず、第1講演の「先天性股関節脱臼早期発見の取組み」では、新潟大学総合リハビリテーションセンター助教の村上玲子先生が、幼少期に起こる股関節疾患とその治療や知識を丁寧に解説しました。

次の第2講演の「変形性股関節症」では、北里大学整形外科学・医療衛生学部教授の高平尚伸先生が変形性股関節症の知識～全人工股関節置換術後のQOL（クオリティオブライフ）向上つまり、術後のスポーツ活動について動画を用いて、わかりやすく講演いたしました。

そして、第3講演の「股関節を長持ちさせて、ロコモに打ち克つコツ！ボール体操」では、講演を当財団の別府諸兄理事長が行い、実技を当財団実技指導者である太藻ゆみこ氏が、参加者の皆さまと一緒に、エクササイズボールを用いたボール体操ならびに、無料配布したソフトギムニク（小さなボール）を用いた体操も併せて実演し、大変好評でした。

最後に行われた「質疑応答」では、股関節～ボール体操まで会場の皆様と活発に意見交換がなされ、大変有意義なものとなりました。



股関節関連書籍のご紹介コーナー

「人工股関節の手術を受ける人が読んでおきたい本」

人工股関節の手術前に関する疑問・質問を幅広く網羅し、イラストと専門家の解説(有名大学教授・医師・健康運動指導士)のわかり易い解説で、大変読みやすい内容です。2017年2月中旬発行予定



お問い合わせ・予約注文
TEL/FAX 03-3416-4366
E-mail medfit@hs.catv.ne.jp

～本書目次～

- 1、人工股関節に関する疑問にお答えします
 - 2、股関節の病気の診断と検査の疑問にお答えします。
 - 3、人工股関節の手術前の疑問にお答えします。
 - 4、人工股関節の手術前の体操についてお答えします。
 - 5、人工股関節の手術についてお答えします。
 - 6、あなたの質問にお答えします。
- ～人工股関節手術 Q&A～
- 7、たいせつなあなたの股関節手術の記録



定価1,000円(税別)

ISBN 978-4-9908815-1-1 C0047

監修 別府諸兄

編集 公益財団法人日本股関節研究振興財団

発行・お問合せ先 メディカルフィットネス研究所

所在地 〒157-0076 東京都世田谷区岡本 3-6-13

訃報

当財団の創設者であり 名誉理事長の伊丹康人先生が

平成 28 年 12 月 22 日 102 歳の生涯を閉じました

ここに生前のご厚誼に深謝し 謹んでご通知申し上げます

平成 29 年 1 月 25 日

公益財団法人日本股関節研究振興財団

理事長 別府諸兄